



〒510-8588 三重県三重郡川越町大字豊田一色280番地 TEL 059-366-7112

<http://www.town.kawagoe.mie.jp/>

川越町PR動画 川越町の魅力を動画で紹介しています。川越町っていいねって感じていただけます。



川越町
Kawagoe Town

川越町ってどんなまち？

小さいけれど、
元気なまちなんです。

面積8.73km²、人口約15,000人の川越町。

小さなまちですが、実は、ここ20年人口が増え続けているという、
人口減少の日本において、なかなか元気なまちなんです。

各地区には、古くから伝わる個性豊かな祭があります。

小さな子どもたちは、山車や太鼓に憧れを持ってみつめ、
青年になれば、祭の担い手として活躍し、大人の仲間入り。
祭は、そうやって地域の中で受け継がれてきました。

秋には、町民運動会。

赤ちゃん連れの家族から、おじいちゃん、おばあちゃん世代まで集まって、
ふだんはクールを装う若者たちも、なぜか燃えてしまうという、
地区対抗の熱い戦いが繰り広げられます。

考えてみると川越町は、なぜか自然に、

多世代の人たちとふれあえる機会がたくさんあるような気がします。

だから、フレンドリーで、どこか、ゆったり。

この冊子では、そんな川越町の魅力を、
掘り下げてみようと思います。



- ①町民運動会
- ②高松海岸
- ③近鉄川越富洲原駅
- ④桜並木
- ⑤石取祭
- ⑥川越電力館テラ46
- ⑦空から「みえ川越IC」を望む
- ⑧あいあいホール



川越町の、 いいね!を 聞きました。

いろんな「いいね!」が聞こえてきました。
ナツク? それとも、もっとある?
あなたの「いいね!」も聞かせてください。

小学校の登下校のときに、
**地域の方も
当番で見守り**

をしてくれる。
そういうのは、
ありがたいと思います。
地域のボランティアさんです。

**身近に
海を感じる**

高松海岸が好き。
家族でよく散歩します。

近くに公園

があるのはいいね。
手ごろな大きさだから、
目が届くし、安心。

25か所あります!

今は工業のイメージが
強いけど、清流が流れ、
**水の恵みを
受けてきたまち**
なんです。

朝明川と員弁川です。

**交通が
便利。**

すぐ高速に乗れるから
仕事では助かっています。

**待機児童
ゼロ!**

保育所の数は4か所です。

**石取祭は、
地元感を
感じる。**

ああ夏だな!って思う。

毎年7月です

祭に参加すると、
地域の人たちと交流できて、
**地域を
盛り上げてる**
感じがする。

地域の人と
**あいさつ
し合える**

のがいい。

あいさつ・声かけ運動をしています。

**あいあい
センターは、**

よく本を読みに行く。
テストの前には
学習スペースを
使っています。

絵本読み聞かせ会・作品展もやっています。

役場などの
**建物が
きれい!**

**スポーツ
少年団**

の活動が盛んです。

小学校が2つ、
中学校が1つ、
**みんな
顔見知り**

になるよ。

陸上少年団は全国大会の常連です。

緑が多い。

川越町で、子育て

「川越町は子育てしやすいまち」、というのは、おkaaさんたちの間で、かなり定評があります。人と人がつながり合って、助け合ったり、相談したり。小さなまちだからこそ、それが普通にできるのです。「おkaaさんと子どもを、まち全体で包んであげたい」。そんな思いで取り組む川越町の子育て。その魅力をご紹介します。



①



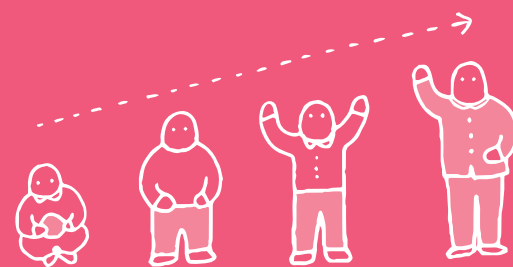
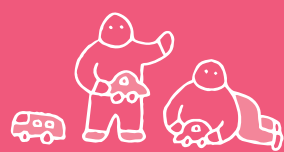
②



③



⑥



①④⑥

子育て中のおkaaさんたち。子育ての悩みやリフレッシュしたい気持ちを語り合う。ささやかな息抜きが楽しい子育てにつながる。
 ②おひさま児童館
 ③幼稚園運動会
 ⑤町内25か所にある身近な「公園」。
 家の近くなので子どもだけでも安心と、好評。



④

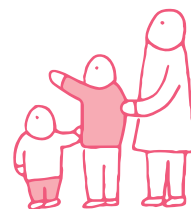


⑤



だから、子育てしやすいんだね。

「地域ぐるみで楽しく、安心して子育てできるまち」を目標に掲げて、子ども・子育て支援事業に取り組む川越町。子育てのしやすさは、こんなところがポイントなのです！



その1

つながる場所をつくる

子どもの年代に応じて利用できる児童館(つばめ児童館、おひさま児童館)、子育て支援センター(ひばり保育園、ほっとまむ)が、川越町の中に2か所ずつあります。

しかも児童館には、学童保育所が併設。さらに、つばめ児童館には子育て支援センターもあり、上の子どもは児童館、下の子どもは子育て支援センターと、きょうだい一緒に利用できます。もちろん、それぞれの児童館、子育て支援センターの掛け持ちもオッケー。小さなまちだからこそ、連携はばっちりです。

おかあさんも、子育て支援センターに行けばいつでも同世代の子を持つママたちと、すぐ顔見知り。「つながる場所」があるということは、「孤立しない」ということ。そこでたくさんの温かい目に見守られて、すこやかに育つ。それが川越町の子育てです。

いつ来ても楽しい 子どもの遊び場 児童館



おひさま児童館

図書コーナーや遊戯創作室など、それぞれの目的に応じて楽しめる部屋があります。

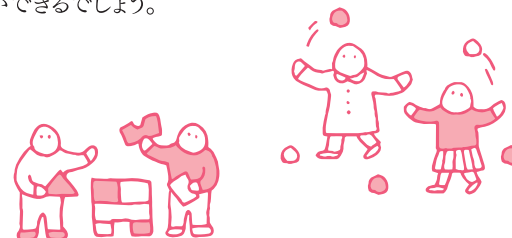
その2

個性いろいろ、使い分けオッケー

2つの子育て支援センターと児童館。「川越町にあるから同じような施設」とかという、これが違うんです。

ひばり保育園が運営する「子育て支援センター スマイリー」は、子どもがゆったり過ごせるように。子育てサポートほっとまむが運営する「川越町子育て支援センター」は、母親目線を大切に、活動のプログラムを組んでいます。

児童館も同じで、つばめ児童館はわいわいにぎやか、おひさま児童館はのんびり、ゆっくり。子どももいろいろ、おかあさんもいろいろ。だから施設もその運営に違いがあっていいんです。親と子どもの個性に合わせて、利用しやすい方を選べば、気負わず楽しい子育てができるでしょう。



上:川越町子育て支援センター
下:子育て支援センター スマイリー

Column

「孤立させない子育て」に、本気です。

利用しやすいと評判の子育て支援センターですが、知らない人もまだまだいるかも。そこで、地域の公民館で出前保育を実施するなど、子育て支援センターを積極的にアピールしています。「孤立させない子育て」に、川越町は本気です。

つばめ児童館

部屋が区切られていないので、いろんな年代の子どもが、文字通り「一つ屋根の下」で遊んでいます。

地域ぐるみで育てよう

「中学生や高校生がやって来る児童館って、とてもいいと思う」と、おかあさんたちも言うように、川越町の児童館は、さまざまな年代の子どもたちがやって来て、大きい子も小さい子もみんな一緒に遊んでいます。異なる年代の子どもたちが集まれば、小さい子を気づかたり、お兄ちゃんを見習ったり、子ども同士で自然に学び合えることがたくさんあります。

さらに、つばめ、おひさま両児童館では、子どもたちと地域のかかわりを大切にしようと、クラブ活動を実施。地域の人の協力のもと、一年を通して稲作づくりをしたり、「茶道部」ではお茶の先生に茶道を習ったり、子どもたちに、「まち」と「ひと」にかかわる、さまざまな体験をさせる機会をつくっています。イベントには川越中学校や川越高校の生徒も参加。まさに、「地域ぐるみの子育て」をかたちにしているのです。



つばめ児童館 かかし作りのイベント



つばめ児童館 菜園部のクラブ活動
地域の人に野菜作りを教えてもらう。



おひさま児童館で、高校生と一緒にゲームを楽しむ。



おひさま児童館 おやつクラブ



子育ての仲間づくりは、ここで 子育て支援センター

● **子育て支援センター スマイリー(ひばり保育園内)**
子どもとおかあさんが、ゆったりした時間を過ごせる場を提供しています。ひばり保育園の中にあるので、広い園庭が利用でき、在園児と一緒に遊ぶことも。地域の公民館や公園に出かけ、園とはちがう場所の「遊ぼう会」も身近な行事として好評です。

● **川越町子育て支援センター(つばめ児童館内)**
川越町で子育て支援をしてきた「ほっとまむ」が運営。「おかあさんたちと一緒に作る子育て支援センター」をモットーに、子育ての大変さ、楽しさを分かち合うことを大切にしています。ここから子育てグループが育ち、子育ての輪が広がっています。

急な用事の一時的預かりは ファミリー・サポート・センター

● 援助を受けたい方と援助をしたい方が会員となって、会員同士で子どもを預かるサービスを提供しています。

つながる・楽しむ 川越町のママたち

子育てサークル ▶リノマザーズ◀

子育て支援センターのベビーマッサージに参加して、顔見知りになったおかあさんたちが立ち上げた子育てサークル。話を聞いてほしい、体を動かしたい!子育て中のそんな思いを分かち合い、親子で心身ともにリフレッシュすることを目的に、出会いと交流を広げています。

その活動は、子どもと一緒に。フラダンスでも、ソフトバレーでも、みんなで子どもを見ながら、おかあさんは汗を流す。企画会議では親も子も、みんながわいわい。「子育ては一人じゃなく、助け合った方がいい。リノに参加して、そう感じた場面がたくさんありました」と言うのはメンバーの方。一人でも多くのおかあさんにリノの活動を知ってもらい、いろんな世代のママたちと、ゆるやかに楽しくつながることを願っています。



日頃の子育ての心配ごとを語り合って発表。「あーうちも、うちも、同じだね。」

リノマザーズの有志が生まれてくる赤ちゃんに手づくりの名札をプレゼント



▶ハピ★ママ◀

おかあさんによる、おかあさんのためのグループ、ハピ★ママ。育児の息抜きやつながりづくりを目的にイベントや講座の企画・運営等を行っています。この活動は社会福祉協議会がサポート。おかあさんたち自らがカフェコーナーを運営したり、講師を招いて創作活動や運動を楽しんだり、たくさんのおかあさんが参加しています。最大の特徴は、託児があること。ひととき、子どものことを気にせず、活動に夢中になれば、気分もすっきり、また子育てに向き合えます。縁あって、川越町で子育てをするおかあさん同士の交流を、これからも大切にしていきます。



ハッピーシェアパーティー
体を動かしたり、癒したり。
お楽しみコーナーが盛りだくさんで、
おかあさんもリフレッシュ。



Column

母子健康手帳は、 保健師が渡します!

川越町では、母子健康手帳を保健師から妊婦さん一人ひとりに、直接手渡しています。その理由は、出産までの間、何かあったら気軽に相談してもらい関係をつくりたいから。小さなまちだからこそできる“つながり”を大切にしています。

子どもたちにも、「好きなこと」をみつけてほしい。
川越町での「楽しいバドミントン」が私の原点。



小椋 久美子さん



バドミントンを始めたきっかけは?

きっかけは川越スポーツ少年団です。姉と兄が入団してバドミントンを始めていました。なので、きょうだい一緒にできるということで、私も小学校2年生から始めました。練習は週3回(火・木・日)。日曜日は9時から5時までほぼ1日。

遊ぶ時間もないくらいですね。

そんなことないですよ。よく遊びました。学校が終わっても校庭でサッカーやったり、追いかけっこしたり。朝明川や高松海岸でも遊びました。

バドミントンが面白って感じ始めたのは、強くなってからですか。

バドミントンは最初から好きでしたね。姉と兄がバドミントンでよく遊んでくれたんです。

高学年になると、三重県内や近県に試合に行くんです。引率のコーチと親と、チームのみんなと、役場のマイクロバスで一緒にわいわい出掛ける。お菓子も何百円まで決めて行っていたんですが、持って行って、遠足みたい。もちろん試合も楽しくて。帰ってきたらバスの掃除をみんなでして…。いろいろな所に行かせてもらいました。

オリンピックを意識したのは、いつ頃からですか。

私は典型的な井の中の蛙で、バドミントンができれば幸せだし、楽しいし、あまり外に目を向ける選手ではなかったんです。オリンピックをしっかり意識して、たとえば出場権はどうやって取るのか、そのために何が必要か、現実的に考え始めたのは高校生の時でした。

オリンピックはどうでしたか?

アテネオリンピックの出場を逃してから北京までの4年間は、全日本総合バドミントン選手権で日本一になり、連覇を続けた喜びも大きかったのですが、日本のエースとしての自覚、プレッシャー、追われる恐怖心に押しつぶされそうになることもありました。特にオリンピックの前年くらいから、世の中の

注目度がすごく変わって、自分の中でも「メダルを取りたい」から「取らなきゃいけない」というプレッシャーが強くなっていきました。でも、それと同じくらい、こんなにも注目してもらえるんだという喜びもありました。

結局、北京オリンピックでは、今までに感じたことのない緊張感、独特の雰囲気押しつぶされました。たくさんの方に応援をいただいて、いい試合ができなかったことは申し訳なく、悔いは残るのですが、オリンピックという場でしか見えないもの、味わえない空間、そこに立てたことは、すごく幸せだったと思います。

バドミントンに打ち込まれた経験はどう活かされていますか。

オリンピックの経験はその後の人生に、すごく生きています。後輩たちにもアドバイスできるし、解説などでも、経験したからこそ説得力をもって話せることもあります。子どもたちにも、オリンピックの夢を広げてもらうことができます。でも私が一番伝えたいことは、「楽しい、好きだ」という気持ちなんです。

私、川越町で、すごく楽しくバドミントンやらせてもらっていたんです。辛い時、壁に当たった時、辞めたいなと思った時、自分がなんでバドミントンを続けてこれたのかなと考えると、ここなんですよね。川越町でバドミントンが好きになって、楽しいと思ったからずーっとやってきた。それが私のベースなんです。その気持ちを思い出して、乗り越えてきた。だから子どもたちにも、何を始めるにしても、「楽しい、好きだ」という気持ちを大切にしてほしいんです。それがもっとがんばりたいと思う原動力。今、全国を回って子どもたちに教えますが、「楽しい、好きだ」というきっかけを私がつくれたら、うれしいですね。



小椋 久美子(おぐらくみこ)
元バドミントン日本代表。2010年1月現役引退後は、スポーツキャスター、バドミントン解説・指導者として幅広く活躍。子どもたちへの指導を中心にバドミントンを通じてスポーツの楽しさを伝える活動を行っている。

川越町で、はたらく

古くは農業、漁業が盛んだった川越町。

高度経済成長期以降、その立地の良さから、

製造・加工業を中心とした企業が進出。

臨海工業地域を中心に、多くの企業が立地し、

多くの雇用を生み出しています。

ここでは、川越町の企業のトップの声や、ユニークな製品、

川越町の風土を生かした製品を作り続ける企業を紹介します。

川越町に根付いて、誠実に、着実に仕事に取り組む人たちに、注目です。



①



②

- ①製品を厳しく検査(森岡産業)
- ②建築装飾を製作中(ミツボン)
- ③せっこうボードの製造過程を厳しくチェック(チヨダウーテ)
- ④「工場はダイナミックで、ものづくりの現場は面白いです」。(チヨダウーテ工務担当)
- ⑤「お客様からありがとうございますの言葉をいただけるのが、うれしいです」(チヨダウーテ受注担当)
- ⑥「仕事はやりがいがあります」(ミツボン)
- ⑦工作機械を操作中(森岡産業)



③



④



⑤



⑥



⑦

謙虚に学ぶ姿勢を大切に。

平田 晴久さん チヨダウーテ株式会社 代表取締役社長

内装建築素材として広く使われるせっこうボード。チヨダウーテは、アメリカ生まれのこの製品にいち早く着目。独自の技術で、日本の住宅になくてはならない存在へと高めてきました。そのシェアは国内第二位。チヨダウーテの社名の通り、ユニーク(UUnique)なテクノロジー(Technology)で全国へ発信しています。



HIRATA Haruhisa

> 沿革を教えてください。

1948年、四日市で父・富久が創業しました。その7年後、せっこうボード事業に乗り出しました。父は新しい事業に取り組みたいと、いろいろ調べる中で、日本の木造住宅において、不燃建材のせっこうボードが求められる時代が必ず来ると考え、川越町のこの地に工場を建設したのです。まだ23号線もなく海岸は目の前。こんなに便利になるとは思わなかったですね。

> 企業として大切にしていることは？

社にもある「信用なくして事業なし」ということです。父から聞いた話ですが、うちは、1959年の伊勢湾台風で社屋・工場すべて流されました。新工場建設からたった4年。いつ再建できるか見当もつかない。そんなとき、金融機関をはじめ関係先から多大な支援をいただき、今日に至る道が開けたわけです。その時の創業者の思いとして、誠実に仕事をしていたからこそ、信頼して手を差し伸べていただけた。それが第一だと。以来、泥臭いかもしれませんが、お客様の信頼を得て人脈を築くことに、地道に努力してきたのです。

> 川越町にこだわる理由は？

せっこうボードを始めてから企業が成長したので、実質、川越町が創業の地で、ここに対する思いはあります。それに何より、立地条件がいい。せっこうボードはその原料に、肥料工場や火力発電所から副産物として発生する化学せっこうを用います。川越町は周りに中部電力をはじめ、せっこうの原料を排出する先がいくつかあり、原料の調達については大変便利です。一方、製品をお届けするという面では、国道23号、高速道路の充実があり、流通拠点としても優れ



た土地柄です。全国展開できたのも、この地での基盤があったからこそ。そういう意味ではここは離れられないと思っています。

> 若い人へ

地元で根付く企業として、アットホームで、安心して働ける職場環境をつくることを心がけています。採用のメインは地元出身者。Uターン人材也大歓迎です。若い人には、先輩からも、お客様からも、謙虚に学ぶ姿勢を大切にしてほしい。「目は高く、頭は低く、心は広く」あってほしいと思います。



チヨダウーテ株式会社
川越町大字高松928番地
www.chiyoda-ute.co.jp/

プロフェッショナルたれ。

松浦 美千穂さん 森岡産業株式会社 代表取締役社長

明治期に創業した肥料問屋が母体、1944年から金属加工を始めました。当初は簡単な冷間圧造(常温で圧力をかけて成型する)を行っていましたが、それを精密冷間圧造技術にまで高め、今や自動車など最先端の製品に欠かせない精密部品を提供しています。1988年、川越町に移転、従業員数は約160人。厳しい業界で、常に時代を読み需要に適応して発展してきました。



MATSUURA Michiho

> 川越町で操業を始めた経緯は？

弊社は当期で74期目の会社です。創業以来、名古屋市で製造販売を行っていましたが、手狭になって4か所の分工場になっていました。ですから、効率化のための一貫生産体制を構築することが一つ。もう一つは、優秀な人材を確保するためです。現在は地元からの雇用が90%以上になっています。不安があった交通条件も、その後、伊勢湾岸自動車道が建設されて、飛躍的に良くなりました。工業団地なので、24時間操業できる利点もあります。

> 製造販売における特徴は？

図面付き、オーダーメイドの特殊品に特化していることです。製品開発に際して、設計段階から取引先と協議しながら部品の開発に参加することもあります。部品の金型は100%社内で設計し、半分は社内で製造もしています。ですから、多様な要求や多品種生産に対応できる点が強みでしょうか。

> 企業としての特色、経営方針は？

私どもは、当初から従業員やお客さんが共同出資して作った会社です。従業員160名ほどの中小企業ですが、中小企業には珍しい、オーナーのいない完全な株式会社として運営しています。私も、大学を卒業して森岡産業に就職して、たまたま今、社長をやっているんですよ(笑)。社員には等しく、社長になるチャンスがあるわけです。

経営方針は、「安心を売る企業」「アメニティファクトリーを目指す」です。「安心を売る企業」とは、お客様が「買って安心」、仕入れ先が「売って安心」、従業員が「働いて安心」という意味です。長い目で見てスキルアップしていけるように、人材を育成していきたいと考えています。



> 若い人へ

新入社員に言うことがあります。自分たちの会社だという気概をもって仕事をしてほしいということ。そして、どんな簡単な作業でもプロフェッショナルとして仕事にあたってほしいということ。最後に、壁にぶつかったらまずファイティングポーズを取ってほしいということです。そうすれば、道が開かれる可能性が出てきますから。



森岡産業株式会社
川越町大字亀崎新田下新田77番地
www.morioka-ind.co.jp

株式会社 ミツボシ

ウレタン素材でユニークなものづくり。
仕事面白いから、
若い世代が育っています。



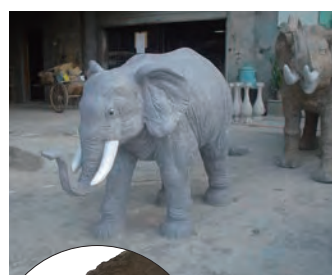
株式会社 ミツボシ
代表取締役社長
駒田 宗久さん

ウレタンやFRP*を素材に、住宅建材や自動車部品からテレビドラマのセットまで、幅広いものづくりを手掛ける(株)ミツボシ。キャッチフレーズは「形あるものは何でも作ります!」。創業は1974年。始まりは、現社長・駒田宗久さんの父、創業者の悟さんが、当時日本では珍しかった「発泡ウレタン」に目をつけたこと。その先見性が、時代のニーズに応じて多様な製品を生み出してきました。

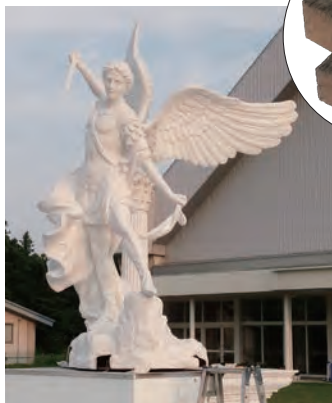
「ほら、触ってみて」と見せてくれたのは、屋根瓦。でもウレタン素材なので実は柔らか。軽くて丈夫という長所を生かし、大河ドラマのセットやテーマパークのモニュメントなど、ワンオフの製作を依頼されることも多くなりました。「造形的なものは、色や風合いなど図面で

は表せないものが多く、そこをどう汲み取るかが腕の見せ所。うちは手塗りを得意とする職人もいるので、どっちが本物?と言われるくらいのもは出せると自負しています」と、培った技術力に自信をのぞかせます。

主力となる従業員の平均年齢は40歳弱。一人前になるには10年かかると言われる世界で、「若い子が育っている」と実感する駒田さん。その秘訣は、仕事の面白さと自主責任制。「一旦任せたら、あとは各自の責任でやりとげるのが方針。だから責任感の強い職人が育つんです。これからも、みんなが喜ぶ、役立つ製品づくりはもちろん、見てびっくりするような面白い製品もつくっていききたい」と、ものづくりへの夢を膨らませています。



株式会社 ミツボシ
川越町大字亀崎新田52番地52
www.geocities.jp/mitsuboshi_co/



株式会社 スマイルコットン

ブランドを支えるオリジナリティ。
世界にたった一つの
技術をベースに世界に発信

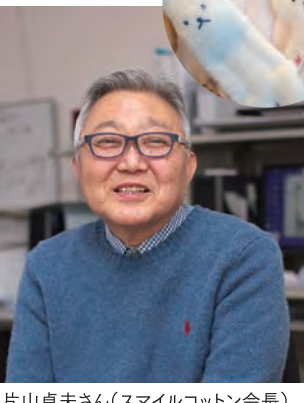


株式会社 スマイルコットン
代表取締役社長
片山 英尚さん

ふんわり、優しい肌ざわり。コットンなのに、カシミアのような温かさと柔らかさ。世界にたった一つの技術で生み出す、その生地の名前は「スマイルコットン」。今や全国のデパートはもちろん、国内外の有名ファッションブランドから多くの引き合いがきます。

川越町を含む三重県北部は昔から繊維産業が盛んでした。片山卓夫さん(株)スマイルコットン会長)は、1972年、大学を卒業するとすぐに父の会社に就職。その年の6月に出会ったのが、現在のスマイルコットンの技術でした。「三重県工業研究所から持ち込まれた技術開発。『綿(わた)の柔らかさを表現する』という考え方は今までにないもので、すごいと思いました」。片山さんはさっそく試作に取りかかりました。以来45年近く、その技術とともに歩んできました。

品質は評価されても、なかなか売れる商品にはなりません。それでも、「質の良さは大きな強み。このブランドを守っていこうという考えがありました。そのうちに、時代が近づいてきたんです」。アトピー協会推薦品の認定を受けるなど、自然・健康・本物志向が強まるにつれ、スマイルコットンの評価は高まっていきました。その技術は他の追随を許さず、さらに進化を続けています。綿ばかりでなく、麻やレーヨン等の商品化など、スマイルコットンの可能性は広がっています。社長の英尚さんも新ブランドを立ち上げ、さらに独自の展開をめざします。「社会のニーズが会社を発展させていきました。オンリーワンの技術で、さらに発信を続けたい」と、将来を見据えています。



片山卓夫さん(スマイルコットン会長)



株式会社 スマイルコットン
川越町大字豊田一色234番地1
www.smile-cotton.com/

株式会社 カマイチ

創業58年、四日市市から川越町に拠点を移して45年。(株)カマイチの主力商品は、「うちのが一番太い」という「ちくわ」です。

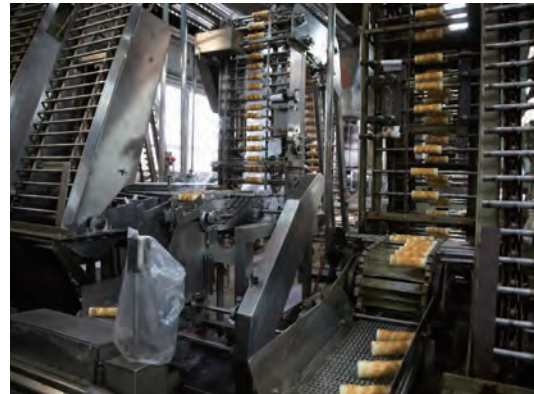
やわらかく焼いたしなやかな皮、風味が良くて噛むと弾力があるカマイチの自慢。その特徴を知ってもらうため、技術的なむずかしさを乗り越えて、あえて太く一。まず大阪でヒットし、やがて東京でも。現在、西は広島、東は仙台まで毎日、商品を届けています。賞味期限の短い商品を広範囲に提供できるのは、日本の真ん中で高速道路が発達している川越町の地の利が活かれています。



渡辺眞吾代表取締役社長



「おいしかった」のお言葉を生きがいに。



指揮している渡辺眞吾さん(代表取締役社長)は、「ちょっと高級な、普段の食材として買ってもらいたい」と話します。こだわりは3つ。第一は品質の良い原料。アラスカ沖ベーリング海で漁獲し、船上で加工、急速冷凍した最高ランクの原料を船名まで指定して仕入れています。原料の仕入れを通じて、地球規模の環境・社会・経済問題まで肌で感じる毎日です。第二は、杵と臼で丹念に練り上げる、昔ながらの製法を大切にすること。これにより、原料や天候によって微妙に違う状態をコントロールしています。第三は、リーズナブルに提供するためにオーダーメイドの最新設備を導入すること。

「ただ売ればいいというのではないのでね」と、渡辺さん。流行にとらわれず社訓「お客様からの『おいしかった』のお言葉を生きがいに」を胸に、高品質で安定した商品を作り続けています。

株式会社 カマイチ
川越町大字高松155番地1



合資会社 早川酒造部

創業は1873(明治6)年。品質本位をモットーに、古き良き酒造りをかたくなに続けています。毎年秋に、その年に収穫された新米を使って仕込みを始めます。使う米は主に三重県産。そして、なくてはならないのが、鈴鹿山脈から流れる朝明川の豊富な伏流水です。

「川越は水がいい。1mくらい掘れば水が湧き出てくる。柔らかな水だから、まるやかで甘口の酒ができる」と語るのは、早川圭介さん(代表)。主力銘柄の「天一」「天慶」、いずれも米の旨味を十分に引き出したコクと香りが自慢です。

毎朝、仕込んだ酒の発酵状態をチェックします。「『顔を見る』って言うんです。香り、泡の出方、色。コンピュータで数値管理する時代だけど、五感で判断することが一番大事。特にうちのような小さな酒蔵はね」。

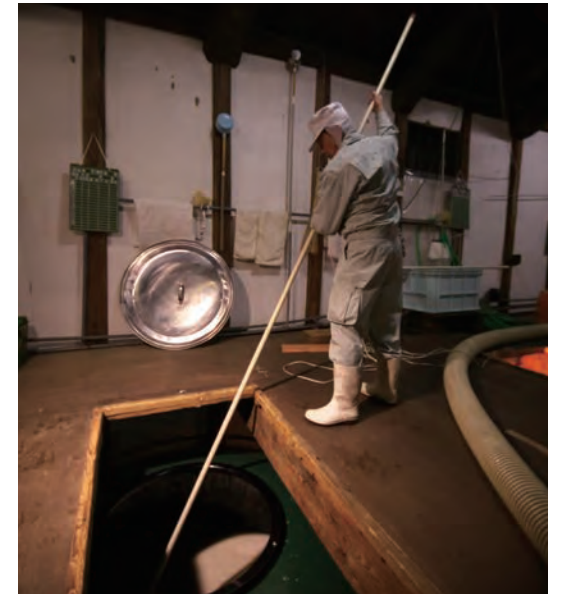


早川圭介さん



伏流水が湧き出る井戸

川越の水でつくる、伝統の酒造り

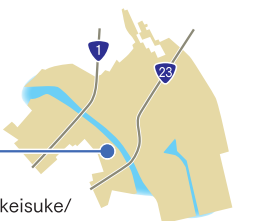


町屋川、朝明川の流れる川越町には、かつて「水」にかかわる産業がたくさんありました。酒、味噌、染色、繊維産業…。「その一つがうち」と早川さん。「今はそうした産業も少なくなり、だからこそ、その伝統を守っていききたいと思っています」。

水の豊富な川越町。そこで酒造りを続ける酒蔵の存在を知ってほしいと、小学校の社会見学や一般の酒蔵見学、春の蔵開きにはコンサートも行っています。井戸の蓋をあけて、「ほら、川越の水は今もきれいで、こんこんと湧いているんだよ」と、子どもたちに語りかけています。

合資会社 早川酒造部

川越町大字高松829番地
www.sam.hi-ho.ne.jp/hayakawakeisuke/



川越町で、がんばる

川越町を“地元”として、
それぞれにがんばる人たちの声を聞きました。

シンクロユース世界大会で優勝



野呂 さくらさん

シンクロは母からすすめられました。練習を見に行ったら楽しそうだったんですが、実際に始めたらとても厳しかった。今までに何度もやめたいと思ったことがあるけど、次の朝になると練習するのが当たり前という感じに戻っている。練習が楽しくても本番でできると、そのつらさは忘れてしまう。自分でも成長しているのかなと思います。友だちと遊ぶ時間はほとんどないですが、「練習頑張ってね!」と声をかけられるとうれしいです。地元のいろいろな人たちに支えられているんだと感じています。世界大会*に出場して自信が生まれました。オリンピックはまだイメージできていませんが、国内大会で落ち着いて試合に臨んでいきたいです。

*第35回クリスマスプライズ・ブラハ2016 13-15歳区分(2016年12月2日~4日)
ソロ:第1位 デュエット:第1位 フィギュア:第6位

アットホームなまちの良さを実感



鉦形一哉さん 西村颯馬さん 前川結さん 牧野円加さん

(平成29年成人式実行委員)

今年、成人の代表として成人式実行委員を務めました。みんな川越中学校の出身で横のつながりはずっとあります。他の市町では、会場がいくつかに分かれています。川越町は一つで、9割は知った顔。このアットホーム感が、いいなって思うんです。

町民運動会でも、大人も子どもも参加して、地元愛が熱いです。こういうの、どこの町にもあると思っていただけ、そうでもないらしくて。身近すぎて、川越町の良さに気がつかなかったんですね。お祭りや盆踊り、地区の行事も盛んだし、そういうつながりは、これからも大切にしたいです。

誰もやらないなら、僕がやる。川越マルシェで盛り上げる。



川村 朋之さん (モルタン代表)

平成24年から近鉄川越富洲原駅前広場で川越マルシェを開催しています。平成29年の5月で第9回目。ここまでできたのは意地かな(笑)。観光地も名産も少ない川越町で面白いこととして、人が集まる場所を作りたいなと。川越にこだわる理由?親父が地元の活動をずっとやっていた人で、熱く地元愛を語っていたんです。亡くなって、一つくらい親父の意志を継ぐのもいいかなと。それに、僕も産まれてからずっと45年川越町に住んでいて、地元ですからね。

マルシェでめざすのは、3世代交流。小さい子からおばあちゃん世代まで、3世代がゆるく集まって楽しめる場になれば嬉しいですね。最近、川越町の出店者さんが少しづつですが増えてきました。やっぱり人がね、まちの魅力をつくると思うんですよ。きっと。

川越町のいいね!

身近にあるね! 公共施設



- | | | | |
|---|---------|--------------------------|-------------------------|
| ① 川越町役場 | ⑤ 川越中学校 | ⑪ ひばり保育園・子育て支援センター スマイリー | ⑮ 町民野球場・町民運動広場・町民テニスコート |
| ② 川越町総合センター
▶川越診療所
▶あいあいセンター
▶いきいきセンター | ⑥ 川越高校 | ⑫ つばめ児童館・川越町子育て支援センター | ⑯ 中央公民館 |
| ③ 川越南小学校 | ⑦ 川越幼稚園 | ⑬ おひさま児童館 | ⑰ 郷土資料館 |
| ④ 川越北小学校 | ⑧ 南部保育所 | ⑭ 総合体育館・町民プール | ★ 公園(25カ所) |
| | ⑨ 中部保育所 | | ● 各地区公民館(10カ所) |
| | ⑩ 北部保育所 | | |